（別紙）応募用紙「土木広報大賞 2021」

団体名：噂の土木応援チームデミーとマツ			
応募部門 （複数選択可）	☑イベント部門	□映像・メディア部門	□広報ツール・アイテム部門
	□教育・教材部門	□商業広告部門	☑企画部門
土木広報活動および活動名：デミーとマツの土木広報大賞２０２０			

広報活動または作品の概要

デミーとマツの
土木広報大賞2020

▶▶噂の土木応援チームデミーとマツとは何者か

噂の土木応援チームデミーとマツ（以下デミーとマツ）は、「土木の使命と価値」を伝えるために工学博士で土木技術者である長崎大学の出水享（でみずあきら、デミー）と、株式会社インフラ・ラボの松永昭吾（まつながしょうご、マツ）が 2016 年に結成したボランティアユニットです。子供を対象として、実際の土木現場で「コンクリートの吹付け」、「岩盤の爆破」などの体験をとおして土木を面白く、楽しく伝える活動を行っています。これまでに全 24 回の土木体験イベントを実施しています。また、学童保育、小中高校で出前・オンライン授業も行っています。これらの活動が話題を呼び 500 件以上のメディアに取り上げられるとともに、土木学会から土木広報大賞 2018 優秀賞、2019 準優秀賞を受賞しています。その他、ソロ活動を含め土木広報に関する広報活動を精力的に行っており、2020 年度からは土木学会誌編集委員、2021 年度からは土木学会 web 情報誌「from DOBOKU」の初代編集長としても活動しています。

▶▶なぜデミーとマツが土木広報大賞 2020 を開催したのか

デミーとマツは、土木広報大賞の受賞をきっかけとして中部、関東、東北、北陸へと全国に土木広報活動の和を広げていきました。例えば、2020 年 12 月に開催された全国建設青年会議全国大会「テーマ：子供たちへ建設業の未来を繋ぐために」においては、約 550 名の聴講者の前で講演を行うとともに、田中里沙氏（事業構想大学院）、国土交通省官房技術審議官（当時）の東川直正氏などとともにパネルディスカッションを行うことができました。このように土木学会土木広報大賞はデミーとマツの活動の和を大きく拡げてくれただけでなく、広報熱をさらに加速させてくれました。また、表彰式後に開催された懇親会で同志たちと語る土木の未来はデミーとマツにとって大きな刺激となりました。そのような中、土木広報大賞 2019 表彰式後、『土木広報大賞 2020 は開催しない』と衝撃の発表を聞き、全国で高まりはじめた土木広報の熱をこのまま冷ますわけにはいけないという“変な”使命感がデミーとマツに芽生え、ここまでデミーとマツを成長させてくれた土木広報大賞への恩返しの意味も込めて、「学会がやらなければ、デミーとマツが（土木広報大賞）やる！」と決め、「デミーとマツの土木広報大賞 2020」の開催にいたりました。

広報活動または作品の概要

▶▶「デミーとマツの土木広報大賞２０２０」の概要

【応募について】

デミーとマツの土木広報大賞の特徴としては「全国の土木広報活動の掘り起こしを行うため誰にでも SNS 感覚（気軽）に応募できるように工夫をしています。例えば、①応募用紙を不要とすることで応募の煩わし

さをなくしす、②応募対象は自薦だけでなく他薦も可能とする、③応募方法は(a)メール、(b)SNS（Twitter、Facebook、Instagram）の発信（＃デミマツ土木広報大賞 2020 のタグをつけ）、(c)デミーとマツの推薦の 3 パターンとする、⑤ウェブ等で発信・公開している情報から審査した（ウェブ等で発信していない情報は対象外）としました。応募に関しては、デミーとマツのＨＰ，SNS を中心に行い、土木学会や各種団体に協力を仰ぎました。なお、審査は、チームデミーとマツ（デミー、マツ、マネージャー、専属カメラマン、専属イラストレーター）で行いました。また、開催にあたっては、土木広報大賞開催の実績がある土木学会から後援を頂きました。

広報活動または作品の効果

【審査結果】119 件の応募の中から最優秀団体賞 1 件、最優秀作品賞 1 件、優秀賞として、ウェブ・SNS 部門 4 件、図書・雑誌部門 3 件、イベント部門 3 件、写真・映像部門 3 件、キャラクター・グッズ部門 3 件、特別賞 1 件の計 20 件を選定しました。土木学会土木広報大賞 2018、2019 を上回る応募をいただくことができたこと、そのなかでも「地域建設業」や「個人」の応募を多数いただけたことなどから土木学会とは縁が薄い地域建設業や個人におけるデミーとマツの認知度が確認できたとともに、土木広報の裾野の広まりと機運の高まりを読み取ることができました。以下に受賞者の一部を示します。
<受賞団体の一部（優秀賞は１位）>最優秀団体賞（デミー賞）加藤建設、最優秀作品賞（マツ賞）日本トンネル専門工事業協会、優秀賞（ウェブ・SNS 部門）日本トンネル専門工事業協会、優秀賞（図書・雑誌部門）理工図書ほか、優秀賞（イベント部門）みなみあそ観光局ほか、優秀賞（写真・映像部門）コプロス、優秀賞（キャラクター・グッズ部門）江口組、特別賞 元気丸(オフィスまめかな)

【表彰式の概要】表彰式は 2020 年 11 月 18 日（水）土木の日に実施しました。新型コロナウィルス感染拡大防止のためオンライン（ＺＯＯＭを利用）開催としました。オンラインイベントの実績が少なかったことから、開催にあたって受賞団体と事前に ZOOM 接続テストを行いました。表彰式では、受賞ごとにチームデミーとマツから審査コメントを述べるとともに、副賞の賞状とオリジナル缶バッチを贈呈（後日郵送）しました。賞状はデミーとマツ応援団の書道家が直筆で書いてくれました。表彰式の司会はデミーとマツのマネージャー（元バスガイド）が担当しました。来賓として、土木学会専務理事の塚田幸広氏から祝辞と次なる期待を賜りました。さらに、特別賞を受賞したお笑い芸人「元気丸」がサプライズで漫才を披露し、オンライン会場は多いに盛り上がりました。なお、表彰式に関する費用は、デミーとマツがコツコツ貯めたおお小遣いを切り崩して行いました。手作り感の中にも、温もり溢れる表彰式ができたと自負しています。

【効果】

- 本「デミーとマツの土木広報大賞 2020」の開催により、土木広報を評価する仕組みに継続性をもたせることができました。さらには、土木広報の草の根活動にも光をあて、土木広報の裾野を広げ、土木広報に貢献する団体、人材のつながりをさらに強固とすることができました。
- 個人や地域建設業と後援団体である土木学会との距離を縮めることができ、学会の認知度向上に貢献できました。
- 「ドボクのラジオ」とデミーとマツとのコラボが実現し、最優秀賞 2 組、各部門優秀賞 1 位の 5 組、特別賞 1 組（元気丸）の合計 7 組をゲストに向かえた YouTube 番組を制作、配信し、多くの方に各団体の「広報への思いとそのコツ」を伝えることができました。
- 受賞者（例えばキャラクター・グッズ部門 1 位 CHIKACO 姉さん　株式会社江口組）が地元のメディアで大きく取り上げられるなど、各団体の地元での認知度向上に大きく貢献することができました。